

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和2年度】

2021年 4月 22日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 102-0083

所在地 東京都千代田区麹町3-2-6 麹町本多ビル3B

評価機関名 一般社団法人日本福祉サービス評価機構

認証評価機関番号

機構 02 - 033

電話番号 03-3262-2260

代表者氏名 代表理事 太田 吉泰

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	太田 吉泰	経営	H0301059
	②	笹野 武則	経営	H0901035
	③	植村 義秀	福祉	H1801080
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	福祉型障害児入所施設(旧知的障害児施設)			
評価対象事業所名称	友愛学園児童部		指定番号	1352800013
事業所連絡先	〒	198-0001		
	所在地	東京都青梅市成木2-107		
	TEL	0428-74-5453		
事業所代表者氏名	施設長 渡部 光行			
契約日	2020年 7月 1日			
利用者調査票配付日(実施日)	2020年 8月 5日			
利用者調査結果報告日	2020年 11月 16日			
自己評価の調査票配付日	2020年 7月 31日			
自己評価結果報告日	2020年 11月 16日			
訪問調査日	2020年 11月 20日			
評価合議日	2020年 12月 23日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、保護者にはアンケート方式で実施、利用者本人は場面観察方式で実施しました。事業評価については、職員会議で評価手法等について説明して実施しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2021年 3月 29日

事業者代表者氏名 施設長 渡部 光行

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもたちの最善の利益を考える（権利擁護） 2) 子どもたちの健やかな成長を支える（信頼感・安心感・満足感） 3) 日々の観察から肯定的な子ども像を捉える（正しい特性理解・潜在能力の助長） 4) 保護者を共同の援助者とする（学び合う意識） 5) 子どもたちが望む自立的な大人の生活実現を考える（社会への移行支援）
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> * 誠実であること。主体性を持って考え、判断し、行動し、学ぼうという姿勢の人材。 * 組織の一員として最低限の報・連・相ができ、周囲の意見を傾聴、保護者との協同による児童の育み、独善的な言動に走らず、謙虚に組織の中で能力を表出できる人材。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>国民の税金により仕事をしている以上、社会に向けて自分の仕事の説明責任が伴うこと、生命を預かっていることの重さを常に意識してほしい。そして正しい倫理観の下、支援を必要としている人とその家族に寄り添い支えていく気概を持ち続けてほしい。</p>

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	新型コロナ感染対策BCPを策定し、事業継続に必要なリスクマネジメントを行っている	
内容①	現在、事業継続において最優先リスクとなっている新型コロナウイルス感染症に対して、法人の新型コロナ感染症BCPに基づき、児童部として「新型コロナウイルス感染時における対応マニュアル」を策定し、感染防止対策、感染発生時の具体的な対応等を定めている。感染者・陽性者対応、ゾーニング、初動対応、指示系統・分掌、対応手順（防護具、レッドゾーンへの出入り等）等、感染発生時に迅速・適切に対応できるよう詳細に定め、また、成人部と相互支援を行う場合を想定した服薬手順の統一、初動訓練等、事業継続に必要な取り組みを行っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	建て替え計画検討委員に若手職員が入ると共に全職員の意見を集約しながら進めている	
内容②	法人により児童部(含成人部)の施設建て替えに関する5か年計画が昨年度立てられ、計画内容の検討が始まった。新しい児童部施設の計画検討は管理職だけでなく、若手職員(主任1名、3年目の女性職員)も検討委員に加わり、「自分が将来にわたって働きたい職場になるよう」自由に意見を出してもらっている。また、施設の建て替え計画に関するアンケートを全職員に行い、現場職員の要望や思いを把握すると共に、支援スタッフ会議でもこれまで3回検討する機会をもち、職員の意見や提案を集約しながら計画検討を進めるよう取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル③	ケース会議の改善に取り組み個別支援計画や進捗状況の共有化が確実に出来るようになった	
内容③	個別支援計画に係るケース会議の方法を変更し、職員間における個別支援計画の内容共有、進捗状況の確認方法の改善に取り組んでいる。具体的には、児童の個別支援計画を立案した職員が支援計画の内容や目標、考え方を他の職員に説明し、管理者、児童発達支援管理責任者を含め質問や意見交換を行い、職員全体で共有するようになった。また、生活棟別に毎月3人ずつ支援経過を説明し、児童の実状に即した進捗状況を確認するようになった。これらにより個別支援計画に対する職員の意識や自覚が高まり、日々の支援記録にも反映されてきているとのことである。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	新型コロナウイルス感染が拡がる中、感染対策を十分講じながら入所施設の役割や責任が果たせるよう様々な工夫を行いながら支援に取り組んでいる
	内容	新型コロナウイルス感染防止のため業務上の制約・制限を多くせざるを得ない中、入所施設として「コロナ下でもこれだけは行う」との考えで、感染防止対策を講じながら種々取り組んでいる。緊急度の高い児童の短期入所も含む入所受入れ、大学・専門学校等の施設実習、緊急事態宣言中のバスをチャーターしての登校、保護者との面談制限に伴い、毎週1回臨時的「施設だより」を作成し保護者へ送付(8回)、支援上必要な外出訓練の実施、オンラインでのダンスワークショップの活動等、支援方法を工夫し、施設の役割が果たせるよう取り組んでいることが何われる。
2	タイトル	職員倫理綱領、児童の権利擁護規程を定め、児童の権利を擁護し児童の最善の利益を考えた支援、児童の主体性を育む支援に取り組んでいる
	内容	職員倫理綱領や利用者の権利擁護規程を定め、児童の権利を尊重・擁護することへの意識を大切に、児童の最善の利益の視点に立ち児童の気持ちに寄り添った支援をするよう取り組んでいる。また、児童が主体的に生活していることが実感できるよう、生活のルールや行事の内容等を利用者会議や利用者の集いで話し合って決められるようにしている。児童の主体性や権利意識を育成するために、児童が自分の意見や思いを話したり、個別に話を聞く機会を大切に、施設職員以外にも第三者委員との懇談や第三者評価者と話をする機会を設けている。
3	タイトル	一人ひとりの児童に即した支援方法を工夫すると共に、毎月の支援経過を振り返り、支援の方向性を全員で共有しながら取り組んでいる
	内容	視覚的に理解しやすい支援方法を基本にして、職員が写真や絵、カード等支援ツールを工夫したりソーシャルスキルトレーニング等により、一人ひとりの児童の年齢や障害の状況に応じた支援が行われている。また、児童支援職員は担当する児童について1か月ごとに生活や支援を振り返りながら月間のまとめを作成し、支援内容や児童の生活状況を確認している。施設長もケース記録や支援経過を確認し、支援上の要点等を示し、一人ひとりの児童の支援の経過や方向性を全職員で共有し、きめ細かな支援が行えるよう取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	可能な範囲で設備改修等生活環境の改善に取り組むと共にこれまでの実戦経験を活かした施設の建て替え計画の検討が行われるよう期待される
	内容	施設の老朽化や設備の旧式化に伴い、設備改修を重点課題として毎年度生活環境の改善に取り組んできている。法人により昨年度より5か年計画で建て替えの検討が始められたが、事業所としては建て替え計画と並行しながら設備改善も行っていくことを課題としている。現在生活している児童が自分の生活環境が少しでもよくなることを実感できることを大切に、児童の要望等ふまえて可能な範囲で設備改善を継続していくことが望まれる。また、これまでの実践経験をふまえて、望ましい生活環境等について検討し建て替え計画に反映していけるよう期待される。
2	タイトル	児童期をトータルに支援できる力量を持った職員の育成や次世代の中核を担える人材の育成の取り組みを更に進めていくことが望まれる
	内容	職員構成が中堅・ベテラン層と新任や経験の浅い職員に分かれ、中間層の職員が少なく、業務的にも中堅・ベテラン層に依存する面があるとのことである。また、児童支援には18歳までの大人への時期をトータルに支援できる力量が求められ、そのような力量をもった職員を多くしていくためにも中間層の人材育成を課題としている。現在行っているフレッシュアップシートによる育成面接に加え、OJTの促進、新しい人事考課制度の導入、「指導職ポストの増設」等を行いながら、次世代の中核を担える人材育成の取り組みを進めていくことが望まれる。
3	タイトル	被虐待の児童や発達障害等個別的ケアが重要な児童の支援について継続して取り組むと共に職員配置基準や加算改定への働きかけが期待される
	内容	入所児の半数以上が被虐待や発達障害を伴う軽度知的障害のため、精神的・心理的ケアが重要な児童が増え、児童精神科医や心理職、児童福祉司等と連携しながら、個別的ケアを重視した支援に取り組んでいる。しかし、現在の職員配置基準では関われる時間や職員に限られる上、通常の支援から外れることで、他の児童の支援に影響が出るとのことでもある。人的に厳しい支援環境ではあるが、個別的ケアが必要な児童への丁寧な支援を今後も継続していくよう期待される。併せて、心理職や相談対応職員の配置、報酬上の加算等、行政への働きかけにも期待したい。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-1-1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している
タイトル①	短期入所担当職員を配置し公平な利用調整や入退所、保護者からの相談対応等行っている	
内容①	短期入所担当職員を配置し、利用受付、入退所対応、保護者との連絡・連携、相談対応等の窓口を一本化した受け入れ体制にしている。短期入所の希望が集中する週末や長期休み等不公平感を与えないよう配慮しながら受け入れの調整を行い、保護者の要望に応じた送迎時間や利用方法への対応、相談・苦情対応等を行い、利用者や保護者に適切に対応できる体制にしている。前年度は苦情はなく、新規契約者が11名あった。短期入所担当職員は利用希望に関する相談だけではなく、地域での様々な悩みや困難ケースのカンファレンス等にも応じるようにしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-6	地域で自立した生活を送れるよう支援をしている
タイトル②	「地域資源としての短期入所」の方針で普段の地域生活が継続できるよう支援している	
内容②	地域の福祉資源として、〈利用者の地域生活を支援する〉という考え方の下で短期入所事業を運営し、急な利用希望に対応したり困難ケースの受け入れも行っている。経営上、利用中は事業所から学校や通所事業所等へ通学・通所しない1日利用が望ましいが、利用者の普段の地域生活が継続できることを基本方針にして、放課後等デイサービスや学校、日中活動事業所等へ通学、通所しながら短期入所利用ができるようにしている。それに伴い学校や通所先への送迎も行っている。また、入所時間や退所時間等も保護者の都合に24時間対応できるようにしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	利用者保護(3)	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル③	新型コロナ感染対策BCPを策定し、事業継続に必要なリスクマネジメントを行っている	
内容③	現在、事業継続における最優先リスクの新型コロナウイルス感染症に対して、法人の新型コロナ感染症BCPに基づき、児童部として「新型コロナウイルス感染時における対応マニュアル」を策定し、感染防止対策、感染発生時の具体的な対応等を定めている。今年度コロナ下により、短期入所の受け入れを制限したが、児童相談所等からの依頼による緊急保護的な入所の受け入れを行うと共に、感染拡大が少し減少した8月の夏休み期間の受け入れを行い12名が利用した。感染状況をふまえ、感染対策を講じながら短期入所利用の受け入れを検討している。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	児童・保護者の希望、意見に基づく短期入所サービス計画を作成し、1か月以上利用する場合はサービス計画を毎月作成し支援を行っている
	内容	事前面談で詳しい聞き取りを行ってアセスメントし、児童の状況や希望、保護者の意見を把握し、短期入所登録用紙に記録している。アセスメントに基づいて短期入所サービス計画を作成し、利用時に計画の説明を行い利用を開始している。利用が1か月以上に亘る場合は、利用月の月初にサービス計画を作成して計画の更新を行うと共に、利用者の心身状況や生活状況等を短期入所者生活記録に記録している。また、利用間隔があいた場合には再度聞き取りを行い、アセスメントの見直し、登録用紙への記録を更新して計画の見直しを行い支援を行っている。
2	タイトル	短期入所の居室が個室化され、児童の生活スタイルやプライバシーを尊重し児童の希望や障害特性に配慮した支援を行うよう取り組んでいる
	内容	短期入所児童の居室が一昨年度に個室化され、児童の生活スタイルやプライバシーが尊重される環境になっている。短期入所する児童について、集団生活に対する児童の意識や人間関係のとり方、障害の特性、必要な配慮等、その都度職員間で共有して支援するようにしている。また、利用前の生活に近い状態で過ごせるよう児童の好みや特性に配慮し、普段使用している私物も持ってこられるようにしている。居室は私物をいろいろ置く広さはないとのことだが、テレビやDVDプレイヤー等の備品を設置し、児童が生活しやすい環境になるよう取り組んでいる。
3	タイトル	〈利用者の地域生活を支援する〉との基本方針の下で、地域の福祉資源として様々な短期入所ニーズに対応した事業運営に取り組んでいる
	内容	〈利用者の地域生活を支援する〉を基本方針とし、事業所の短期入所事業が地域の福祉資源となるよう取り組んでいる。急な利用希望への対応や困難ケースの受け入れ等を含め、学校や他の事業所との並行利用と送迎、入退所の24時間対応等、様々な利用ニーズに対応した運営を行っている。コロナ下の今年度の利用受け入れは制限せざるを得なくなっているが、上記の取り組みにより、前年度の利用者は1日平均4人を超える状況となっており、1泊や2～3泊の体験的利用、レスパイト利用等のニーズも増え、地域資源としての事業運営に取り組んでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	可能な範囲で設備改修等生活環境の改善に取り組むと共にこれまでの実戦経験を活かした施設の建て替え計画の検討が行われるよう期待される
	内容	施設の老朽化、設備の旧式化に伴い、法人により昨年度より5か年計画で建て替えの検討が始められたが、建て替え計画と並行して、継続的に設備の改善に取り組んでいくことを事業所の課題としている。この間、短期入所児童の居室の個室化を含め、毎年度設備等の改善を行ってきた。建て替えまでの期間も、児童の要望等ふまえながら、引き続き可能な範囲での生活環境の改善を行っていくよう期待したい。また、事業所のこれまでの実践経験をふまえ、短期入所の児童にとって望ましい生活環境等について検討し、建て替え計画に反映されるよう期待する。
2	タイトル	様々な児童が入れ替わりで利用する短期入所児支援に必要な力量を備えた中間層人材や次世代の中核人材育成の取り組みに期待する
	内容	事業所の職員構成が中堅・ベテラン層と新任や経験の浅い職員に分かれ、経験年数が3年に満たない職員が多いとのことである。また、障害状況の異なる児童が短期間で入れ替わりで利用する短期入所児支援にはより多くの技能や経験も求められると思われる。若年経験層の職員の力量のより一層の向上を図ることを課題として、現在行っているフレッシュアップシートによる育成面接に加え、OJTの促進、内部研修等を進めながら、中間層人材や次世代の中核を担える人材を育成する取り組みを更に進めていくよう期待される。
3	タイトル	ホームページの事業所情報に事業所の考え方や事業内容、利用方法など、もう少し具体的にわかる内容になるよう望みたい
	内容	〈友愛学園児童部短期入所〉の事業はHPで《児童部》の事業内容のうち一つの事業として説明されているが、もう少し具体的な内容にした方がいいと感じられる。法人の他の事業紹介の内容とも関連するため、短期入所事業だけ詳しくすることは難しいかもしれないが、短期入所の事業内容の説明や基本方針、利用方法や問い合わせ先等、HPを閲覧した人が知りたいと思うことはいろいろあるのではないだろうか。現在コロナ下で受け入れを制限している中では、発信の内容を検討しなくてはならないと思われるが、HPの掲載内容を検討されるよう望まれる。